

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果概要と 王禅寺中央中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。
本校におきましては、学校経営目標として、以下の5点を掲げ、日々の教育活動を進めております。

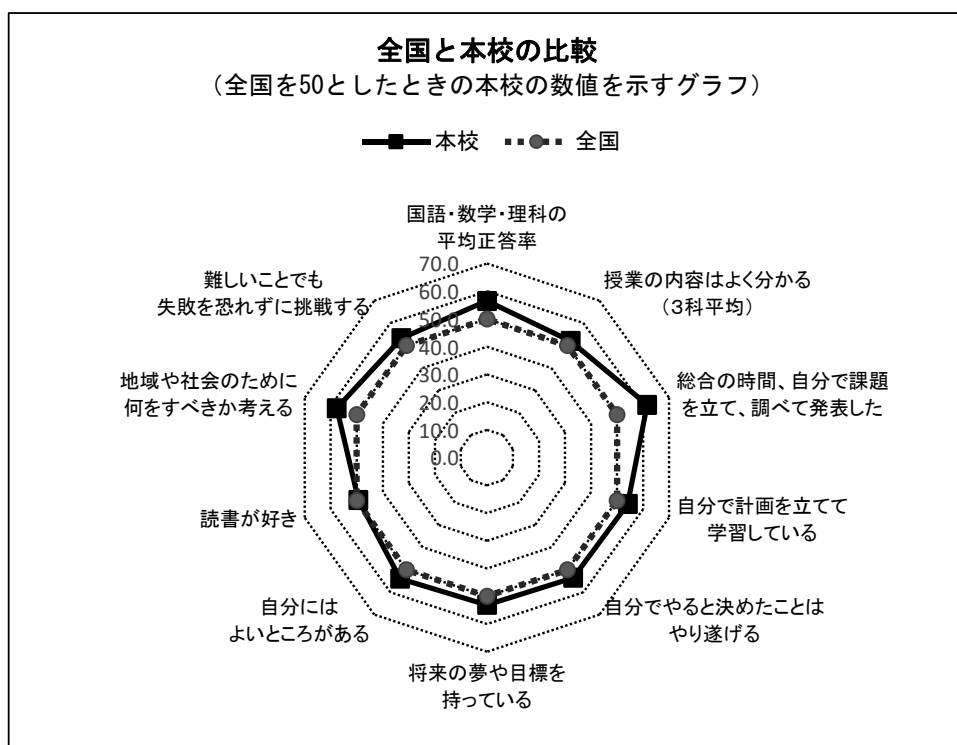
- ① 学習への関心、主体的学習態度の育成 ② 個に応じた適切な支援教育・教育相談
- ③ 信頼関係に基づいた集団づくり ④ 健康で安全性の高い環境の創出
- ⑤ キャリア在り方生き方教育・進路指導の充実

これらの本校の学校経営目標を踏まえ、4月19日（火）に3年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の調査結果を分析いたしましたので、今後の取組と併せてご報告申し上げます。

なお、本調査によって測定できるのは、学力の特定の一部分、学校教育活動の一側面であり、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標です。保護者の皆様には、その点をご理解いただき、今後も本校生徒のよりよい成長を促すための参考として本文書をご覧いただきたいと存じます。

1. 調査結果の概要

- 今年度の全国学力・学習状況調査は、これまで通りの国語・数学に、理科を加えて実施されました。その結果、本校生徒の正答率は3教科とも全国を上回りました。「自分で計画を立てて学習している」と回答した生徒の割合も全国を上回っていることなどから、自主的、計画的な学習をしていることがこの背景にあると思われます。
- 総合的な学習の時間に関しては、高い達成感、充実感がうかがえる結果でした。
- 「将来の夢や目標を持っている」「自分にはよいところがある」「地域や社会のために何をすべきか考える」と回答した生徒の割合も全国を上回りました。自身に向ける意識が高く、社会とのつながりについても考えている生徒の多いことがうかがえました。
- 「読書が好き」と回答した生徒の割合は全国より下回りました。スマートフォンなどのゲームをする時間も全国より少ない結果でした。勉強時間を優先する傾向が背景にあると考えられます。



2. 調査結果をもとにした分析と課題

※ 文中で示している数値は、「学校以外での学習時間」についての回答を除いて、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた数値です。() の数値は全国平均を表しています。

(1) 学校経営目標①「学習への関心、主体的学習態度の育成」にかかわる調査結果から

【目標に対するこれまでの取組】

わかりやすく、興味・関心を呼ぶ授業に努め、また、知識や技能の習得と思考・判断・表現の力を伸ばすために、基礎・基本と応用・発展をバランスよく組み合わせた授業構成を心がけました。数学ではティームティーチングを取り入れ、一人一人に合った学習方法を模索したり、苦手意識の克服を支援したりすることに努めてきました。

【現状と課題】

- ・国語、数学、理科の正答率はいずれも全国を上回る結果でした。各教科を領域別に分析した結果では、国語は6領域中4領域、数学は4領域の全て、理科は4領域の全てで全国を上回る結果でした。国語では「話すこと・聞くこと」

が全国を大きく上回り、「言語」や「読むこと」、「我が国の言語文化に関する事項」でも全国より高い数値を得ましたが、「書くこと」と「情報の扱い方」において全国を下回りました。

- ・平日の学校以外の学習時間に関する調査では、「2時間以上」が58.2% (35.2%)、これを含めた「1時間以上」は81.7% (69.5%) となり、学習習慣はかなり定着していることが読み取れます。昨年度は59.8%と全国を下回った「自分で計画を立てて勉強をしている」も、今年度は63.3% (58.5%) と全国より高くなりました。
- ・学習の意義や必要性を感じ取り、意欲的に授業に取り組む生徒の多い本校です。その姿勢を維持していけるよう、授業の質の向上や適切な評価に努めます。また、授業内容が「よく分かる」という回答割合は、3教科平均で80.6% (77.5%) と、正答率の高さに比べて必ずしも高くないことに注目し、個々の学習状況の見取りや支援、助言を一層手厚いものにしていきたいと考えています。国語では、「書くこと」や「情報の扱い方」を重点化した指導を計画の中に取り入れます。

(2) 学校経営目標②「個に応じた適切な支援教育・教育相談」及び

③「信頼関係に基づいた集団づくり」にかかわる調査結果から

【目標に対するこれまでの取組】

自他ともに大切にすることを育て、個性を大切にしよう意識を、あらゆる教育活動を通じて浸透させてきました。また、集団の中での役割意識や責任感を高めると共に、学校行事などを通じて、達成感や自己肯定感を得られるような支援に努めてきました。

【現状と課題】

- ・「自分には、よいところがある」が84.7% (78.5%) と高く、それと呼応するように「先生は、よいところを認めてくれている」91.8% (86.6%) という結果を得ました。また、「人が困っているときは、進んで助ける」が93.9% (88.4%)、「いじめは、どんな理由があってもいけない」が96.9% (96.4%) といった結果から、自己肯定感や道徳的心情、他者に向ける意識が健全に育っていることもうかがわれます。
- ・昨年度、全国を下回った「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」は92.8% (86.8%) と高くなりました。個々の意志とともに、それを認め、支える周囲との関係性の向上によるものだと受け止めています。
- ・一方で「友達と協力するのは楽しい」は89.8% (93.7%) と全国よりやや低い結果となりました。必要感だけでなく、楽しさを感じられる過程を含んだ協働的学習を取り入れていくことが重要だと考えます。

(3) 学校経営目標⑤「キャリア在り方生き方教育・進路指導の充実」にかかわる調査結果から

【目標に対するこれまでの取組】

特別活動や総合的な学習の時間を通じて、一人一人が希望や目標をもち、自身の将来像を次第に具体化しながら、社会の中で生きるための自らの在り方の確立に向けた手がかりとなるような指導、支援を進めてきました。個人面談や教育相談の機会を活用して、個性や適性を自覚したり、視野を広げたりできるような働きかけもしてきました。

【現状と課題】

- ・昨年度61.5%とやや低い数値だった「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」は71.4% (67.1%)、同じく71.8%にとどまっていた「自分と違う意見について考えるのは楽しい」は82.7% (76.9%) と、新たなことに取り組んだり、自身の世界を広げようとしたりする気持ちが育っていることがうかがわれます。「人の役に立つ人間になりたいと思う」は93.9% (95.0%) とわずかに全国を下回りましたが、社会貢献の意志をもつ生徒は多く存在していることがうかがえます。
- ・一方、「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」は47.0% (40.7%) と、全国を上回ってはいるものの、今年度も5割を下回る数値でした。中学生にとって難しい課題であることの表れだと受け止めていますが、自己実現と関連づけながら地域や社会に向ける目を育てていきたいと考えます。

3. 課題に対する今後の取組

- ・わかりやすく、楽しいと感じられる授業に努め、苦手な教科に対しても積極的に取り組む気持ちを下支えする働きかけ（励ましやアドバイス）に一層力を入れます。
- ・個人と集団との良好な関係づくりや、それに伴う自己肯定感、自己有用感を育て、未経験の役割を引き受けたり、活動を通して交友を広げたりしようとする意欲を高くできるよう、個々への支援の充実を図ります。
- ・自分の「現在地」を客観的に見つめつつ、自身の理想や求める将来像を追求し、それらに向けた具体的な取り組みを始めたり、より高い次元で自己実現を図ろうとしたりする態度を養います。

教育委員会から

王禅寺中央中学校では、生徒の資質・能力をバランスよく育むために授業の構成を工夫し、継続的に授業改善の取組を進めています。総合的な学習の時間に関する調査結果からは、主体的にその資質・能力を発揮して自己の設定した課題に取り組み、さらに力を伸ばす生徒の姿が見えてきます。また、信頼関係に基づいた集団づくりやキャリア在り方生き方教育等の取組の充実を図り、自他を大切にすることを育てるとともに、一人一人の生徒が安心して活動できる学校であることに努めています。

【麻生区・教育担当】